

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253 1口500円にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。



News Letter

2022年10月4回号 発行: 常総生協広報G



2022-23年度活動テーマ(案)「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」

秋の味覚を感じる果実 長野県のりんごは最盛期を迎えます



↑はなうた家の谷口さんご夫妻

↑はなうた家さんのりんごの樹・収穫を迎えたりんご

10月も中旬になり、だいぶ秋らしい季節になってきました。りんごの一大産地、長野県ではりんごの収穫が最盛期を迎えます。今週は長野県麻績(おみ)村でりんごを作っている「はなうた家」谷口さんご夫妻を紹介します。

麻績村は、標高800～1000mに位置し雨が少なく昼夜の寒暖差が大きいのが特徴です。「昼は太陽の光をたっぷり浴び、夜はカラダを守る為にデンプン(糖度)を高めるので、味の良いりんごが育つ」と谷口さんは話します。

この好条件もあり、かつては麻績村でもりんご栽培が盛んでしたが、過疎化の一途を辿り、現在りんご生産者もかなり減ってしまいました。麻績村へ移住した最初の頃は、村の人たちに驚かれたものの「この地でもう一度りんご栽培で盛り上げていく」という谷口さんご夫妻の熱意に惹かれ、今では収穫物などのおすそ分けや、困った時は何でも話せる相談相手になれる仲になったと話しています。

次のページでりんごの栽培方法や谷口さんのお人柄など、「はなうた家」さんの魅力に迫ります！

●生協基幹運営／地域活動・催し●	●提携・協同・連帯企画●
・10/14(金) ミートパル村山交流会 ・10/22(土) 生産者プレゼンテーション会 ・11/2(水) 大豆PJ 横瀬さん援農 ・11/5(土) 生協まつり ・11/12(土) 地産地消野菜チーム(清水農園 援農交流会)	・10/19(水) 脱原発とくらし見直し委員会



はなうた家さんは、2021年より常総生協の生産者として仲間に加わり、長野県麻績(おみ)村でりんごを栽培しています。実は谷口真利さんは常総生協の組合員で、過去には総代・総代会議長など多岐に渡り常総生協に尽力していただきました。
(写真左：谷口さんご夫妻 知(さとる)さん、真利(まり)さん
写真右：2016年総代会議長をつとめた谷口さん)



拠点である長野県は、茨城県に住んでいたころからアウトドアなどで通っており、豊かな自然に惹かれていきました。2011年の東日本大震災をきっかけになるべく原発から遠い地域で暮らしたいと思うようになり、2018年に「地域おこし協力隊」として長野県麻績村へ移住、りんご生産者として一歩を踏み出しました。最初の3年は農協などの市場出荷をしていましたが、真利さんが主宰するヨガ教室の仲間など、SNSなどを通じて徐々に直接販売にシフトしていきます。そして、2021年度はインターネット上の直売店の運営や、生協を通じて、直接販売のみで完売させました。

～ありのままにりんごを育てる 谷口知(さとる)さんに聞きました～

長野県の一般的なりんごの園場を通ると、密な間隔でりんごを育てているのが分かります。りんごの樹の間隔はおよそ1メートルで、収量を伸ばす為、化学肥料を用いることで「より短期間で」「より大量」に収穫する事を目的としています。たしかに効率的だとは思いますが、それでは根が育ちません。

肥料をあげない代わりに「垂直農法」という樹のホルモンの働きに寄り添った剪定や手入れを取り入れて、木を元気にする栽培方法を実践しています。樹は上に向かって伸びていきますが、一般の栽培方法は下へ下へ伸ばしていきます。人間が収穫しやすいという利点はありますが、生命力が弱まるのであえて上へ上へ伸ばします。(右の写真：枝葉が上に伸びていくりんごの樹)



また、りんごの樹の間隔を一般の樹よりも広く開けることで、根付きやすくしています。園場全体の樹の本数は少ないですが、一本当たりの樹の収量は年々上がっています。肥料に頼らない元気な樹に育てば、自ずと農薬の量も減らしていけると考えています。

今年の農薬使用量は当地の一般的な防除基準の3割以下で栽培できました。今後もより安心安全で美味しいりんごを作りたいと思っています。

※りんごは無肥料で育てました。農薬についてはネオニコチノイド系農薬、除草剤、落下防止剤、着色促進剤、摘花剤、摘果剤、不使用です。

～はなうた家・谷口さんから組合員さんへメッセージ～

茨城県に暮らしていた頃、常総生協さんは生活に欠かせない存在でした。ずっとお世話になっていた常総生協さんと、今度は生産者として、また繋がる事ができて本当に嬉しいです。私たちは、なるべく薬剤を使わない農法なので、一般的に栽培しているりんごよりもスレ・キズが多く出てしまいます。かつては農協などに出荷してましたが少しのキズがあるだけで等級が下がってしまうので、殆ど売上が立たない事もありました。個人のお客さんや常総生協に販路があることでとても助かっています。

安心安全な美味しいりんごで、たくさんの方の笑顔と健康のお手伝いをしたい！そんな想いで励んでいます。常総生協さんには、素晴らしい生産者さんが揃っていて、わたしたち若輩者は緊張もしますが、精一杯頑張ります。これからどうぞ宜しくお願い致します。

10月4回 ⑨「りんご(シナノスイート) 3玉入り

特価683円(738円)754円

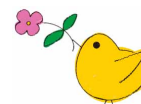
※シナノスイートは今週でシーズン最終です。また、11月4回から「りんご(ふじ)」も企画予定です。こちらもお楽しみください。

(商品部：小宮山)





関東子ども健康調査支援基金 年次活動報告会&講演会のお知らせ



関東子ども健康調査支援基金は、福島原発事故の放射能が子どもたちに与える影響を心配した千葉と茨城の市民が中心となって立ち上げた基金です。常総生協の組合員の皆さんや生産者の皆さんをはじめ、多くの方々から支援を受けて、2013年9月から甲状腺エコー検査を開始しました。常総生協はこの基金の事務局を担っています。毎月、注文番号からのご寄付も頂いております。皆様のご支援に感謝申し上げます。

基金の活動は、2022年10月で10年目に入りました。2020年3月から約1年間検診を中止していましたが、現在は感染症対策を行いながら実施しています。今回の報告会では、昨年から行っている感染症対策とスタッフ不足の両方を支えることができる新しい運営方式「少人数運営」の様子や、この1年間の検診の結果、今後の検診計画等を報告・提案します。

報告会の後、宇都宮大学学術院 国際学部 清水奈名子教授の講演会「**市民による検診活動の意義ー検診受検者へのアンケート調査結果から考えるー**」を予定しています。2011年の福島原発事故から11年が経ち、「福島県県民健康調査」では300人近くの若者の「甲状腺がん」が見つかっています。基金の検診からも3人見つかっています。放射能汚染は関東にも及びましたが公的な健康調査は行われずに、市民による検診活動のみが続いています。事故当時から被害者に寄り添い、基金の甲状腺検査会場（栃木県内）でもアンケートを通して受検者の声を聞き続けている清水奈名子さんのお話を伺います。清水奈名子さんは、国際連合の安全保障体制について研究すると同時に、東京電力福島第一原発事故後の被害調査を進め、原発避難のタブー化や、被害の不可視化の問題を中心に研究を進めています。大学で講義をする傍ら、国際学部附属多文化公共圏センター「福島原発震災に関する研究フォーラム」共同代表や、原子力市民委員会委員も務めています。

今回は**常総生協 組合員活動室の会場とZoom視聴を併用して行います**。下記の申し込みフォームから事前にお申し込みください。会場のお席には限りがあります為、お申込み状況によりZoomへの変更をお願いさせていただく場合があります。

日時 2022年12月4日（日） 13:00～15:30

◆年次活動報告会 13:00～13:40（12:45より入室可）

◆清水奈名子さん講演会 14:00～15:30（13:50入室可。講演1時間、質疑応答20分の予定。）

※講演会の詳細はチラシやホームページをご覧ください

申込はこちらへ <https://bit.ly/3RLP4EZ>

スマホはQRコードから➡➡



- 年次報告会への参加は基金の会員の方のみ（常総生協の組合員は団体会員です）。
- 要事前申込。報告会と講演会のどちらかのお申込みも可能です。申し込みは11月末締切
- 途中入場、退出可。参加費無料です。

お問い合わせ先 基金事務局（担当：伊原） 電話0297-38-8539

メール ibachiba@kantokodomo.info ホームページ <https://kantokodomo.info>

理事会よもやま通信 第31号

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します

発行 常総生活協同組合理事会
TEL0297-48-4911
FAX0297-45-6675

大豆プロジェクト ～アグリ古柿土・横瀬さん(守谷市)～

10月5日、守谷市のアグリ古柿土

(ふるがきと)の横瀬さんの大豆畑にて、

理事4人で除草してきました。朝から

小雨がぱらついていましたが、開始時間

の朝9時には止んで、強い風もなく涼

しい中で作業になりました。今年は昨

年より収量アップを目指して、昨年とは

場所を移し、より広い場所で大さんの大豆が育って

しました。奥の方は雑草の方が多くて、大豆より雑草が勝

っていました。そこは少し遅れて播種した場所だそう

です。他のところは大豆がしっかり育っていて、雑草も

少なめ・・・うん、多少は少な目(笑)。横瀬さん曰く、

「播種のタイミングがとても大切」とのことです。今日

の大豆の様子は美味しそうな枝豆の状態(写真左)。横瀬

さんは昨年今年も、播種は生協からのお手伝い無しで、

横瀬さんお一人で行ってくださいますが、タイミ

ングが大切だからなんです。除草作業は生協理事も

一緒にやらせて頂き

ます。今日も横瀬さ

んにとっても喜んで

頂けて、私も嬉しく

思いました。(佐藤)



11月2日水曜日朝9時より

横瀬さん(守谷市内)の大豆畑にて

除草のお手伝い大募集です！

今年は昨年より収穫アップを目指して、畑も広くなり、

雑草の量も増えています。ぜひ組合員の皆さんもお手伝い

をお願いします！記事左下の募集欄もご覧ください。

大豆プロジェクトでは、アグリ古柿土(横瀬さん)の他に、

坂東市のどんぐりてい、行方市の微生物農法の会(長島さ

ん)でも大豆を育てており、どんぐりていでは11月下旬頃

に手作業による収穫を予定しています。(他の畑では農機で

刈り取る予定です。)

どんぐりてい

9月初旬の

大豆畑の様子



薄い色が雑草(>_<)



こちらのうねは除草済



アグリ古柿土

除草後の大豆畑

11/2(水)除草お手伝い募集！

お手伝いしていただける方は生協までお電話いただくか、注文用紙のご意見欄や、ホームページの「イベント」案内画面にある申込フォームから①お名前、②組合員番号、③当日連絡が取れる電話番号(雨天中止時等に連絡)をお知らせください。スマホからは左のQRコードもご利用ください。当日は朝8:30に生協本部にお集まりください。
担当：木内 (0297-48-4911)



常総生協が好きだー！



『理事会よもやま通信』へのご意見・ご感想は、OCR用紙の「意見・要望・連絡欄」、ネット注文の方は「ご意見のページ」にご記入をお願いいたします。